

P2-047

子育て中の保護者の加工食品摂取頻度に関する実態調査

仁藤 喜久子、菅原 詩緒理

仙台白百合女子大学

【目的】 幼児期の食習慣の形成には保護者が大きく影響されると考えられている。そこで我々は、保育園に通う園児の保護者の食事や栄養摂取状況及び意識の実態を調査している。今回は加工食品に関する質問を取り入れた食の実態を調査することを目的とした。

【方法】 対象は、2019年8月～12月の期間に宮城県仙台市内の保育施設（小規模保育事業・事業所内保育事業・企業主導型保育事業・認可外保育施設）計25園に通園している保護者402名である。データ収集は、園から自記式質問紙を手渡し、記入後、園に直接持参か郵送で回収した。質問内容は、食態度、意思・意欲、食スキル、加工食品などであった。分析は、SPSSを用いて単純集計を実施した。本調査は、研究者の所属機関の研究倫理審査委員会（承認番号：2019-30）の承認を得て実施した。

【結果】 回収率は53.7%であり、回答は216名から得られた。回答者の平均年齢33歳で94%が女性であった。食事を作る方は88.4%が母親であった。食態度は、「家族／仲間と一緒に食事をするに対する態度」は、67.9%が一緒に食べたいと回答した。意思・意欲は、「栄養・食事に関する学習に対する態度」は、54.4%がまあまあしたいと回答した。食スキルは、「現在、食事に関する問題点」は、32.6%があまりない、30.7%がまあまああると回答した。加工食品に関して「日頃、加工食品を利用しますか」では、47.7%がまあまあ利用すると回答した。「加工食品と言われて思い浮かぶ食品」を問う内容では、ウインナー、ソーセージ、ハム、冷凍食品を挙げる者が多くいた。また、「加工食品についてのイメージ」では、49.1%があまり良くないと回答した。その内容としては、食品添加物をたくさん含んでいるなどと具体的に回答した。

【考察】 以上の結果より、食態度は、約7割が一緒に食べたいと回答しているが、現実には家族と一緒に食事をするのが難しい状況にあることが伺える。意思・意欲に関しては、半数以上が学習したいと考えていると思われた。食スキルに関しては、ほぼ同じ割合で食スキルの問題点を抱えている者とうそではない者がいることが伺えた。さらに、加工食品はあまり良くないと感じながらも使用している現状を調べることができた。今後は、これらの現状を細分化しどのように対象者へフィードバックしていくかが検討課題であると考えられた。

P2-048

幼児の食生活の問題―間食を中心として―

三橋 扶佐子¹⁾、堤 ちはる²⁾

日本歯科大学 生命歯学部 共同利用研究センター¹⁾、
相模女子大学 栄養科学部 健康栄養学科²⁾

【目的】 幼児の保護者の食の困りごとや、間食の提供状況等と保護者のそれらへの対応方法等を明らかにし、幼児期の食の支援に役立つガイドライン作成に寄与する基礎資料を得ることを目的とした。

【方法】 2歳から就学前までの保育園等の子どもの保護者にアンケート調査（郵送法）を実施した。主な調査項目は回答者の基本情報、生活の経済的・時間的ゆとり、食の困りごと、食品群別摂取状況、間食としてよく与えているものなどである。本研究は相模女子大学「ヒトを対象とする研究に関する倫理審査委員会」の承認を得ている（受理番号18128号）。

【結果】 1951人の保護者から回答を得た。経済的なゆとりは「どちらともいえない」が約32%で最多であったが、時間的なゆとりは「あまりゆとりがない」が約48%と最多であった。間食としてよく与えているものの上位3つは、2歳児では果物（23.6%）、せんべい（19.5%）、クッキー・ビスケット（17.5%）、3～5歳児ではチョコレート（19.2%）、スナック菓子（17.5%）、せんべい（15.4%）であった。出生順位（第1子と第2子）と性別による4群では2歳児で果物が最も多く与えられていたが、3歳以上になるとスナック菓子とチョコレートが増加していた。果物は、第1子よりも第2子のほうが与えられる頻度が高かった。チョコレートの順位は男児に比べ、女児の方が高かった。年齢が上がるの間食の種類も増えていた。

【考察】 離乳を終えて間もない2歳児では、保護者は間食に果物などを与え、内容に配慮がみられた。しかし、3歳以降は夕食までの小腹を満たすため、手軽さ、子どもの嗜好重視でチョコレートやスナック菓子を与えることが多かった。果物は年齢が上がる順位が下がるが、第2子のほうが第1子よりも習慣的に与えられていた。何等分かで提供される果物は児の人数が多い方が提供しやすいのではないかと考えられる。また、おにぎり、パンなどの補食的な食品はほとんど見られず、幼児においても食後のデザートのような嗜好品の間食が多かった。育児経験のある保護者には、支援者が適切な間食内容を伝える支援より、自らの気づきを促す手法を取り入れたアンケート等の保護者への実施が効果的ではないかと思われる。なお、約半数の保護者は、時間的にあまりゆとりがない状況にあることから、支援に際してはその点についての配慮も必要であると考えられる。